令和７年度研究推進計画

学 校 名　江田島市立大柿中学校
学校長名　　八　川　慎　一

１　研究主題等について

（１）研究主題　自己の生き方を追求する子どもたちを育む道徳教育の創造
～道徳教育プログラムの実践を通して～

（２）研究のねらい

自己の生き方を追求する生徒を育むことを目指し、道徳教育の要となる道徳科の授業改善、小中９年間を見通した道徳教育を実施する。失敗や困難を乗り越える力（克己と強い意志）を育み、生徒一人ひとりが自己理解を深めて、自己の将来の生き方を考え卒業後の進路を主体的に選択し、さらに積極的にその後の生活において自己実現を図ろうとする態度を育てる。困難な状況に遭遇しても心が折れず、自己の認識を深め、人生を選択し、表現できる生徒の育成を目指す。

（３）主題設定の理由

昨年度は、研究テーマを「自己の生き方を追求する道徳教育の創造～小中９年間を見通したレジリエンスを育成する学習活動を通して～」と題して、特に「主体的に学び、協働する授業づくりの工夫」について研究を進めた。ねらいにせまる指導にあたり、それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階を把握し、主題解釈、教材解釈を行い、授業改善に取り組んだ。その上で、児童生徒が道徳的価値の理解を深めるための指導方法の工夫について研究を深めた。その道徳的価値について、実感を伴った理解に向けて、自己を見つめ、多面的・多角的に考える導入や発問の工夫、考えを深める場の工夫などについても研究を発展させることができた。また、児童生徒が道徳科を要として、道徳教育全体を通じて道徳性を養うためレジリエンス学習プログラムや行事、総合的な学習の時間（生き方学習）を通して、自己の生き方について追求することを取り組んできた。

児童生徒の意識調査からは、「自己有用感（自分に良いところがあると思う）」において、肯定的に評価する児童生徒は微増であるが、増加傾向にある。一方で、中学校では「将来の夢や目標を持っている」「自分の良さをまわりから認められている（自己有用感）」においては、肯定的評価ポイントが下がる傾向となった。中学生は道徳科を要とし、進路選択、授業や行事、先輩からの経験談等、様々な教育活動を通して自己と他者を比べ、自己の将来像についてより具体的かつ現実的に考え始めてきているとも分析できる。

さらに、次の道徳科に関する意識調査の肯定的回答について述べる。「道徳科の授業では、自分の（人間としての）生き方について考えを深めている」（小学生 86→87%、中学生 87→88%）では、高い横ばい、「道徳科の授業で勉強したことを自分の生活に生かしている」（小学生 84→86%、中学生 84→77%）では、小学生は高い横ばいだが中学生は少し下がった。

また、学校規模の関係で、固定化された人間関係より自分自身に様々なスキルを持っているにもかかわらず、遠慮がちにふるまってしまっている状況も伺える。

そこで、どのような状況下でも他者を認め、自己の生き方について考えを深めるべく、今年度は、研究テーマを「自己の生き方を追求する子供たちを育む道徳教育の創造～道徳教育プログラムの実践を通して～」とした。各校の学校教育目標及び目指す子ども像の育成に向け、道徳教育

全体を通じて、自己について内省（自己理解）しつつ、自己の生き方について考える力（本質：人間としての生き方）を育み、児童生徒の道徳性を養いたいと考え、本主題設定をした。

２　研究内容等について

（１）研究の概要

①主体的に学び、協働する授業づくり

※主体的に学ぶ：自己との関わりで考えを深める

※協働する：物事を多面的・多角的に考える

（主題解釈、教材解釈シートを簡略化した「TM シート（Teaching Material)」を必ず活用）

ア　考えを深める発問の工夫

○場面発問、中心発問の精選

・場面発問：教材把握、人間関係把握、つまり中心発問へ向かう補助的な発問という認識。

・中心発問：児童生徒の多様な価値観を引き出すため発問

イ　自己の生き方を追求するためのふりかえりの充実

○児童生徒が、見方・考え方を働かせられるようになったかをふりかえる。(自己の生き方、自分との関わりで考えられたか、多面的・多角的に考えることができたか。)

・視点①：一面的な見方から多面的・多角的な見方を行なう。

・視点②：道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく。

・項目：「意見が深まった」「付けたしでよりよくなった」「意見が変わった」「学習を振り返ってどのようなことを考えたか」「これからの自分の生活に活かしたいと思うことはどんなことか。」「初めの自分の考えと、今の自分の考えを比べてどんなことが変わったか。」「友達の意見で「なるほど」と気付かされたことはどんな意見だったか。」

○年間２回以上は道徳ログに自分の考えの変容をふりかえる。

ウ　考えを深める場の工夫

○個人⇔集団（ペア、グループ等）を往還させる。

○コの字型やグループでの座席配置（※児童生徒の実態や、主題に応じて柔軟に実施する。何か良い場の工夫があれば積極的に研究を深める。）

○対話シートの活用（道徳科だけに限らず、学校教育全体で取り組む）

②思考を深める授業展開の工夫

ア　板書について

○自己との関わりで考える。

・主題名、めあての明示

○多面的・多角的に考える。

・中心発問の明示、視点、立場の整理

イ　授業連携について

○原則 TT で実施する。

○学校、学年の状況に応じて、柔軟な発想で取り組む。

例：原則、担任（T1）及び道徳推進リーダー教師（T2）で実施する。
系統性を意識するため５年生担任が６年生で実施するなど柔軟な発想で授業を実施する。ただし、全教職員で取り組む意識を大前提とする。

（２）道徳教育プログラムの開発

①児童生徒のレジリエンスを育む学習を道徳教育の中に位置付け、学校教育全体を通して、以下の教育テーマで道徳教育プログラムの開発と実践に取り組む。

重点内容項目は◎で明記したものだが、その他の項目についても他教科等と関連させた道徳教育プログラムの開発・実践に取り組む。

レジリエンス教育のテーマ	関連する主な内容項目
逆境に負けない心	◎希望と勇気、努力（克己）と強い意志 ○よりよく生きる喜び　◎相互理解、寛容
自他を尊重する態度	○親切、思いやり　○友情、信頼　◎相互理解、寛容　○生命尊重
ポジティブ感情	○正直、誠実　○感動、畏敬の念
自尊感情	○個性の伸長　◎希望と勇気、努力（克己）と強い意志
自己効力感	○個性の伸長　◎希望と勇気、努力（克己）と強い意志
ソーシャルサポート	○親切、思いやり　○感謝　○友情、信頼　○家族愛 ○よりよい学校生活、集団生活の充実

◎重点内容項目

道徳教育プログラム

組織的・計画的な教育の質的向上を目指すカリキュラム・マネジメントによる道徳教育の充実を図るため、道徳科の重点内容項目や他の教育活動（各教科、総合的な学習の時間、特別活動等）との関連を考慮して取り組む。行事は小中共通の内容項目を設定することなどにより、全教職員でねらいを明確にした指導、発達段階を意識した指導とすることができる。

レジリエンス教育のテーマ	テーマ 【価値項目】	教科等
自尊感情 自己効力感	【個性の伸長】	【道徳】 【各教科】 【学活】
自他を尊重する態度	【相互理解・寛容】 【親切、思いやり】	【道徳】 【各教科】 【学活】 【行事】
逆境に負けない心	【よりよく生きる喜び】	【道徳】 【各教科】 【総合的な学習の時間】 【学活】
ポジティブ感情 自尊感情	【正直、誠実】 【希望と勇気、努力（克己）と強い意志】	【道徳】 【各教科】 【学活】
ポジティブ感情	【正直、誠実】 【感動、畏敬の念】	【道徳】 【各教科】 【学活】
自己効力感	【希望と勇気、努力（克己）と強い意志】	【道徳】 【各教科】 【学活】
自尊感情	【希望と勇気、努力（克己）と強い意志】	【道徳】 【各教科】 【学活】

自他を尊重する態度 ポジティブ感情	【生命尊重】 【感動、畏敬の念】	【道徳】 【各教科】 【総合的な学習の時間】 【学活】
ソーシャルサポート	【家族愛】 【感謝】 【友情、信頼】	【道徳】 【各教科】 【学活】
逆境に負けない心 自他を尊重する態度 ソーシャルサポート	【よりよい学校生活、 集団生活の充実】 【相互理解・寛容】 【友情、信頼】	【道徳】 【各教科】 【学活】 【行事】

（２）重点内容項目

Ａ　主として自分自身に関すること

・希望と勇気、克己（努力）と強い意志

Ｂ　主として人との関わりに関すること

・相互理解、寛容

（３）実施計画

①全体計画　　○管理職（校長）道徳推進教師　☆◎小中教職員　◇担当者教諭

実施時期	内容及び方法	備考
４月	○江田島市道徳推進協議会事務局会 ○研究推進委員会 ☆小中合同研修会（理論研修、研究推進、年間指導計画）	○講師招聘（4月） 市教委指導主事
５月	○研修推進委員会 ☆小中合同研修会（指導案検討　6/20 分）５/19（月） ☆道徳に関するアンケートの実施及び分析	○講師招聘（5/19） 市教委指導主事 広島大学 宮里教授
６月	○研究推進委員会 ☆小中合同研修会（研究授業：大古小学校）６/９（月） ◎広島県道徳教育研究協議会・推進リーダー研修 （６月 20 日（金）大柿中学校） （兼）江田島市道徳教育推進協議会 （兼）小中合同研修会	☆講師招聘（6/20） 広島大学 宮里教授 ◎講師招聘 県教委指導主事 長野大学 飯塚准教授
７月	○研究推進委員会	
８月	○研究推進委員会 ☆小中合同研修会（理論研修）8/6（水） ☆小中合同研修会（指導案検討　公開研分）8/27（水） （兼）江田島市道徳教育推進協議会	☆講師招聘（8/6） 十文字学園女子大学　浅見教授 ☆講師招聘（8/27） 広島大学 宮里教授
９月	○研修推進委員会 ◇授業交流（模擬授業等）	◎講師招聘 市教委指導主事
10 月	○研究推進委員会 ◇授業交流（模擬授業等）	◎講師招聘 市教委指導主事

11 月	○研究推進委員会 ◎小中合同公開研究大会 （11 月 14 日（金）大古小学校） ［中３、小６、小３or４　授業公開］ （兼）江田島市道徳教育推進協議会	◎講師招聘（11/14 広島大学 宮里教授 県教委指導主事 市教委指導主事
12 月	○研究推進委員会 ☆道徳に関するアンケートの実施及び分析	
１月	○研究推進委員会	
２月	○研究推進委員会（今年度のまとめと次年度に向けて） ☆小中合同研修会（取組のまとめ次年度に向けて） ○江田島市道徳推進協議会事務局会 ※広島県道徳教育研究協議会・推進リーダー研修	○講師招聘２月 市教委指導主事

②校内（小中合同）授業研修計画（案）

時期		研究推進に係る内容の研修	指導・助言（予定）
5	19（月）	小中合同研修会（指導案検討会） （兼）江田島市道徳教育推進協議会	広島大学大学院 宮里　智恵 教授
6	20（金）	第１回道徳教育推進リーダー研修	長野大学 飯塚　秀彦 准教授
8	6（火）	小中合同研修会（理論研修） 「道徳教育の創造」	十文字学園女子大学 浅見　哲也 教授
	27（水）	小中合同研修会（指導案検討） （兼）江田島市道徳教育推進協議会	広島大学大学院 宮里 智恵 教授
11	8（金）	大柿中学校区公開授業研究大会 研究授業 （中学校　　戸田教諭） （小学校　　○○教諭） （小学校　　○○教諭）	広島大学大学院 宮里　智恵　教授 広島県教育委員会 指導主事

（４）検証方法

・児童生徒の意識調査
・道徳科等のワークシート等の記述内容
・道徳科の授業での発言内容
・教員の意識調査
・各教育活動における振り返り等の記述内容

（５）成果の見込み

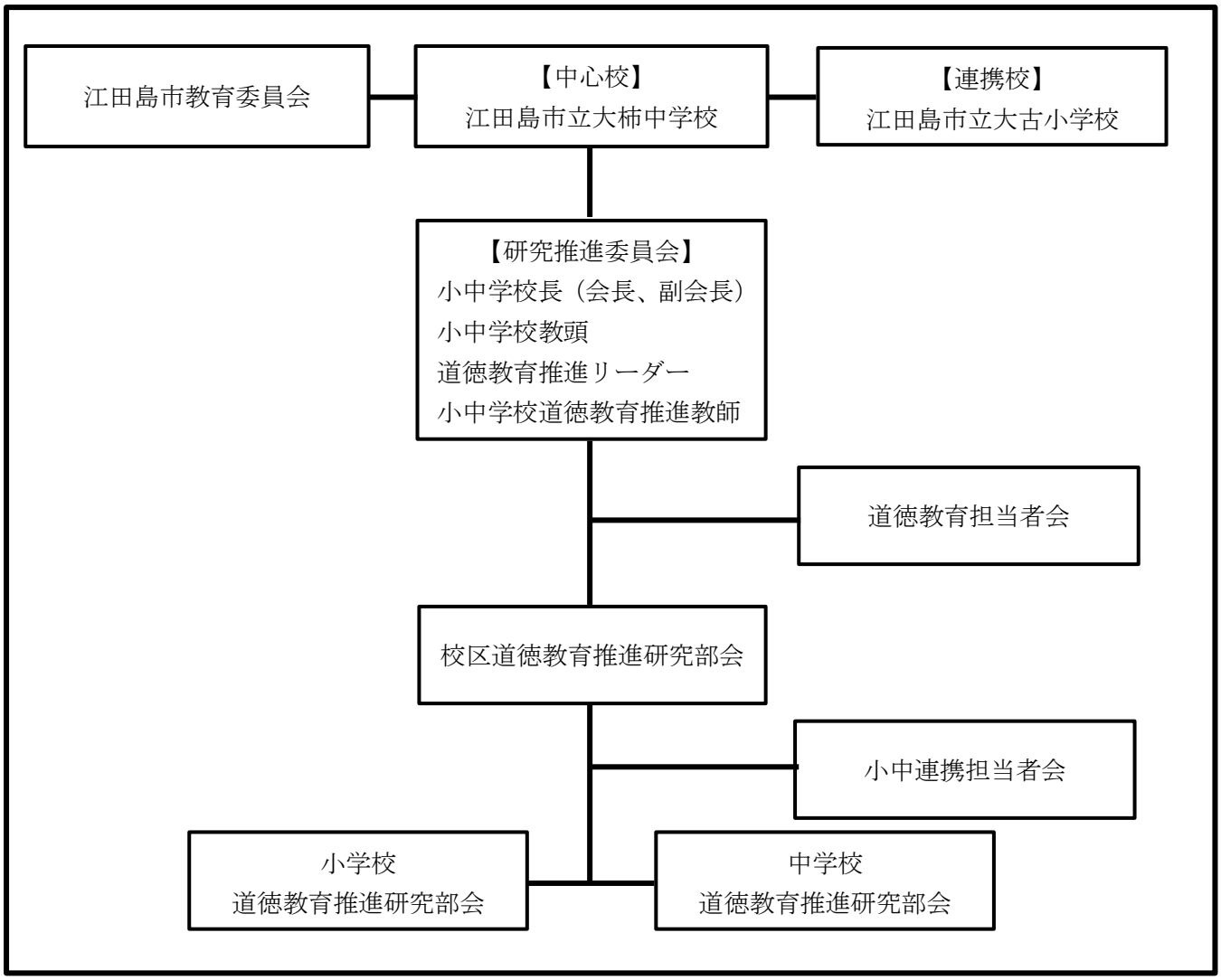
①道徳科の授業において、主題設定・教材解釈シート(TMシート)を用い、ねらいとする道徳的価値に迫る主体的に学び、協働する授業を築き、授業改善を図る。

②道徳教育プログラムの学習活動を通して、自己を見つめ、自己の強みに気付くとともに、主体的に考え、困難なことも乗り越える力を身に付け、自己の生き方を追求する児童生徒を育成することができる。

③小・中学校が連携を図り、中学校区として義務教育９年間を見通した道徳教育が促進され、教員や児童生徒の意識を高めることができる。

３　研究推進体制

（１）組織図



（２）組織の役割

①研究推進委員会

中学校長（会長）、小学校長（副会長）、各校教頭、道徳教育推進リーダー教師、道徳教育推進教師で組織し、研究の方向性、進め方について協議するとともに、研究の全体計画を企画、立案する。

②道徳教育担当者会

道徳教育推進リーダー教師と各担任で組織され、実践前後に必要に応じて集まる。教材研究、実践の振り返り（良かった点、改善点）を共有する。

③校区道徳教育推進研究部会　←年間７回程度（公開研究大会含む）

中学校区全教職員で行う、共通認識の場とする。全教職員で協議を重ね、研究を深めていく。

④小中連携担当者会　←２か月に１回程度

道徳教育推進リーダー教師、道徳推進教師、各校生徒指導主事で組織される。児童生徒の実態について、授業参観や報告から計画された道徳教育プログラムについて研究を深める。

⑤小・中学校道徳教育推進研究部会

校区全体研究会を受けて、授業を通して研究の重点を具現化させていく。

主題・教材解釈をもとに、授業における発問やふりかえりの工夫の分析を行う。